

## 福岡県小学校

## 校長会報

## 『深根固柢』

揺るがない学びの基礎を築く

福岡県教育庁教育振興部  
義務教育課長 中嶋 健一

福岡県小学校長会の皆様におかれましては、平素より本県の教育行政にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、本年五月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが五類に変更されましたが、コロナ禍を経た学びの姿の実現に向けて日々最善を尽くしていただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

さて、全国学力・学習状況調査の本県の結果についてですが、令和五年度は小学校の国語・算数、中学校の国語・数学の全ての区分において全国平均値以上となりました。これは、令和三年度以来、二年ぶり二回目です。小学校の国語は六回、算数は五回連続で全国平均値以上を維持しています。

このような結果が得られたのは、各校における学力向上プランに基づいた組織的な取組、検証改善サイクルの確立、さらには不断の授業改善など、これまでの様々な取組の成果が表れてきているものと考えています。皆様のご尽力に対し、改めて敬意を表し、重ねて感謝を申し上げます。

コロナ禍においては、各校が学びの継続への影響を最小限にするための工夫をする一方で、様々な制限により行事等を通じた連帯感や達成感を得る活動ができず、コロナ禍以前に比べ、非認知的能力の育成については課題が残りました。また、生活リズムが乱れたことや、交友関

係を築くことが難しいことなどから、登校意欲が湧きにくく、不登校児童生徒の増加の一因になっています。

小学校段階は、子どもたちが生涯にわたって、学び生き抜くための基礎を培う重要な時期です。制限が緩和された転換期の今だからこそ、学びの基礎となる資質・能力を育むことの使命感をもって、様々な施策を着実に遂行することが私たちには強く求められています。

標題の『深根固柢』は、今年度我々の心構えとして掲げたテーマです。「根を深くして柢を固くす」ともよみます。「根」「柢」はともに木の根のことで、物事の基礎・基本に例えられます。「物事の基礎・基本をしっかりと固め、揺るがないようにする」という意味の老子の言葉です。

このテーマに込めた思いは次の二つです。社会の変化が激しく予測困難な時代でも、大地に深く固い根を張り、吹き荒れる暴風に耐える大樹のように、本県の子どもたちには、基礎・基本をしっかりと身に付けたたくましい大人に育ってほしい。

また、変容する社会にあって様々な対応が求められる学校現場において、揺るぎない教育観をもったたくましい教師になっていただきたい。こうした願いをこの言葉に込めました。

学力向上、ICT利活用、働き方改革の推進など、学校教育が直面している難局を切り拓くため、校長先生方のリーダーシップを発揮していただき、課題を乗り越えるべく力強く教職員を牽引していただきますようお願いいたします。

共に頑張りましょう。

〒812-0053 福岡市東区箱崎2丁目52番1号

福岡リーセントホテル1階

TEL (092) 292-2292 FAX (092) 292-2294

発行人

福岡県小学校長会  
会長 黒澤 真二

事務局

特色ある学校経営

ふるさと長糸を大切に  
子どもをめざして

糸島市立長糸小学校長 安河内 勇 一

本校は、福岡市の西に位置し糸島市の南部にある山に囲まれ、水に恵まれた自然豊かな地域にあります。全校児童数は百十七名の小規模校です。コミュニティ・スクールの共育目標を「ふるさと長糸を愛し、そのよさを伝え広げる子供の育成」とし、学校・家庭・地域の連携、協力をもとに、地域と共にある学校づくり、小規模校のよさを生かした学校づくりに努めています。

一 小規模特認校制度の導入

令和四年度から小規模特認校制度を導入しました。特認校制度とは、糸島市に居住する児童と保護者が希望すれば、市内全域から入学・転入学することができる制度のことです。特認校制度を始めた理由は、大きく二つあります。一つは、人数減少により廃校になることを防ぐためです。二つは、集団としての最低規模を確保するためです。現在は十名近くの児童が転入学しています。

二 地域との連携行事の充実

本校では、地域と連携して取り組む行事が年間を通して数多くあります。  
・人権の大切さを学ぶ「わかたけ集会」  
・校区の発展を願う郷土振興大会・校区文化祭  
・全校児童による田植え・稲刈り体験



【全校児童と地域の方による田植え体験】

・地域を花いっぱいにする「紫陽花事業」  
・地域のみんなで運動を楽しむ校区合同運動会  
・夏のすてきな思い出づくりの校区夏祭り  
・長糸のよさを伝える郷土カルタづくり  
児童はこれらの行事による豊かな体験を通して、地域の人・もの・ことに触れ、ふるさと長糸に対して誇りを持ち、愛着を深めることができます。

三 異年齢交流活動（縦割り活動）の充実

小規模校の課題として、児童の人間関係の固定化があります。そこで、学級集団の人間関係を離れて、新しい人間関係をつくり、学級集団以外の居場所と活躍の場をもたせることをねらいに積極的に異年齢交流活動に取り組んでいます。

- ・記録に挑戦する長縄チャレンジ大会
- ・友達のよさを見つけて感謝のメッセージ
- ・全校遊びや縦割り班遊びの「遊びの会」
- ・全校児童で食べるランチルーム給食
- ・学校内の秘密を探る校内ウォークラリー
- ・自然の物を使った遊びのコーナー作り

四 組織的な指導体制の充実

教職員間では、情報の共有と共通の実践を大切に行っています。学力向上の取組や生徒指導への対応など、常に情報を共有し、児童にとつてどのような指導・支援が必要であるかを話し合い、共通の実践を行っています。

今後も学校・家庭・地域の連携、協力をもとに、地域と共にある学校づくりに努めます。

学校経営ビジョンを浸透させる組織運営

小郡市立味坂小学校長 江上 征 一

本校は、本年度創立百四十六年目を迎え、児童数百十二名・単学級の小規模校です。小郡市内南部の田園地帯に位置し、緑溢れた静かな環境で子どもたちは育っています。

私は本校校長三年目を迎えますが、私の学校経営ビジョンをどのように子どもたちにまで浸透させるか、そして、どのようにして子どもた



【校長室横の「かがやきメーター」】

ちの自尊感情を向上させるかが課題でした。「浸透」とは「じわじわと染みこんで広がっていくこと」で、即効性があるものではないと考えています。そこで、一年間かけて子どもたちにまで浸透させる工夫を行っています。

一つ目は、校長の学校経営ビジョンを教職員が納得できる準備をすること、つまり「プロセスの設計」です。毎年十二月に行う標準学力調査結果、市が行う生活アンケートの結果、学校独自で行う子どもたちへのアンケートの結果を詳細に分析し、教育課題を明らかにしました。

二つ目は、支援部会を大切にすること、つまり「ビジョンの共有・設計」です。本校は「頭の輝き部」「心の輝き部」「体の輝き部」の三部から児童支援部を構成しています。まず、昨年度十二月に簡単な方向性を提示し、意見をもらいました。二月に前述のアンケート結果をもとに方向性を修正・確認しました。三月には具体

的なビジョンを提案し、各部で具体策を検討しました。そして本年度四月に学校経営ビジョンを本提案し、「どんどん（頭の輝き）」「ぽかぽか（心の輝き）」「ぐんぐん（体の輝き）」の合言葉を決めました。ここで大切にしたのは、トップダウンとボトムアップの融合です。この過程をとることが、教職員の納得につながると考えています。

三つ目は、具体的な手段の実行、つまり「プロセスの実施」と「チーム・ネットワークの活用」です。その中で大切にしてきたのは「可視化」です。方向性・実施の過程・実施の結果をいかに可視化するかを大切にしました。その中で活躍しているのが「職員室の大型モニター」です。大型モニターを職員室後方に設置し、その活用を主幹教諭に指示しました。毎日の予定、共有したいこと等を毎日更新しています。子どもたちの「月のめあて」も三つの輝きの欄を設け、教室に掲示活用しています。

また、校長室横に「かがやきメーター」を作成し、子どもたちが頑張ったら自分でシールを貼ることができるようにしています。

さらにもう一つ、子どもの登校を見守った後の五分間、私が毎朝「五分校内放送」をします。内容は「三つの輝き」のどれかには必ず触れ、シャワーのように子どもたちに「ありがとう」を浴びせています。

このように「浸透」には「納得の過程」と「可視化の手段」が必要なのだと考えています。「かがやきメーター」がどこまで伸びるか楽しみです。

## 地域とともに歩む学校経営

八女市立星野小学校長 高山 千 絵

本校は、八女市の北東部にある児童数七十七名の小規模校です。平成十九年に、旧星野小学校、小野小学校、椋谷小学校、仁田原小学校の四校が統合して設立されました。全校児童の約九割が、スクールバスや路線バスで登校しています。初夏にホタルの飛び交う星野川が流れ、なだらかな山の斜面を利用したお茶の栽培が盛んです。また、先人が作り上げた知恵と苦勞の結晶である棚田が大切に守られています。保護者や地域の方々は、学校教育への関心が高く、協力的です。

### 一 地域の教育力を生かした学習活動の展開

本校では、星野村の豊かな「ひと・もの・こと」を生かした体験活動を取り入れ、NPO法人「がんばりよるよ星野村」やPTAなどの関係機関と連携を図りながら、地域への愛着や誇りを育てる学習活動を行っています。

三年生は、「茶の文化館」の見学やお茶つみ体験などを通して、地域の特産物でもある「星野茶」について調べています。四年生は、棚田の生き物調査をしたり、星野川を下流の有明海までたどったりしながら、きれいな星野川を守ることに考えています。五年生は、棚田米づくりに取り組み、棚田の歴史やはたらきについて学んだり、収穫したお米を地域の祭りなどで販売したりしています。六年生は、平和の広場にある、山本達雄さんが広島から持ち帰られた原爆の残り火を教材とし、山本さんの思いをもとに平和について考えています。さらに、九州



【3・4年生 お茶つみ体験】

最大級の天体望遠鏡をもつ「星の文化館」と連携してアストロスクールを開催し、五・六年生が、手作り望遠鏡の制作などを行っています。

### 二 小中連携による取組

星野小中学校では、「郷土を愛し、将来を見つめ、賢く、優しく、逞しく生きる『星の子』の育成」を学校教育目標としています。五月中旬に開催する「小中合同星のつ子運動会」の企画・運営を通して、小中の教職員が一体となり、九年間で子どもを育てるという共通認識をもって教育活動を行っています。そして、定期的に小中連携の研修会を開き、お互いの授業

を公開したり、本年度の共通実践事項についての進捗状況を把握したりしています。PTA活動についても合同で行うことが多く、連携を密にしています。

### 三 「星野村山村留学」の取組

本校では、過疎化による児童減少対策の一環として旧仁田原小学校で始められた山村留学制度を引き継ぎ、希望する小学三年生から六年生までの児童が、一年間自分の家を離れて「星の自然の家」で共同生活をしながら通学しています。本年度も、県内や大阪から七名の留學生を迎えています。都会や他校区の子とも交わることで互いに刺激を受け、学級の活性化や児童相互の序列化の排除に繋がっています。

このような教育活動を展開していくことを通じて星野村のよさを実感するとともに、主体的に学ぼうとする態度が育成されていると感じています。今後も、地域の宝である子どもたちを地域の方々とともに育てていきたいと思っております。

## やればできる桂小キッズ！

桂川町立桂川小学校長 合澤博之

集会で全校児童に話をする際、最後に恒例で「やれば？」と問えば、満面の笑顔と決めポーズで元氣よく「できる！」と返してくれます。そんな本校児童が可愛くてたまりません。

「やればできる桂小キッズ！」が「学校スローガン」として位置づけられて三年目、今は、全校児童のものとして完全に定着しています。学校行事や児童会の取組の全てに、「や・れ・

ば・で・き・る」を更に具体化したねらいを定め、常に意識できるようにしています。本校の合言葉は他にもあります。そのうちのいくつかを紹介します。

### ○児童の合言葉

・「語先後礼」：挨拶は言葉を先に、言い終わった後に礼をすると、全学級で授業の始まりと終わりの挨拶の仕方を統一指導しています。と目を合わせて挨拶をすることは、コミュニケーション力育成の第一歩と考えられています。運動会では、どの学年も見事な語先後礼を見せました。

・「脳に汗をかく」：学習の合言葉です。「鉛筆や消しゴムは使えば使うほど減っていきます。でも、頭は、使えば使うほどよく働くようになります。脳に汗をかかぐらい頭を使いましょう」と伝えていきます。学習後には、「脳にいっぱい汗をかきましたか」と振り返らせます。

・「掃除は『だ・い・じ』」：「だ・い・じ」は、「だまって・いっしょうけんめい・じか

桂川小学校 全校スローガン

やさしく  
いぎ正しくあいさつ  
いばいがんばる  
きるまでやる  
もちをかんがえる  
一るを守る

桂小キッズ

んいっばい」です。粘り強い指導により、掃除の終わりの放送が流れるまで、黙って掃除をするようになりました。学期に一回の「掃除の達人ウイーク」には、環境委員会による掃除の達人モデルの動画作成と表彰が行われます。

### ○教師の合言葉

・「スマイルトリートメント」：教師の笑顔が児童の活力となります。児童に対する笑顔での対応や心を傷つけない指導を行うための教師の合言葉です。『教室マルチトリートメント』（川上康則著）という本をもとに職員研修を行い、決めた言葉です。

・「間接ほめ」：「〇〇先生が、あなたが友達に優しくしていると言っていたよ。」「〇〇先生は、君たちの自慢をしていたよ。」  
 等、教師間で連携して児童をほめることで、教師と児童の信頼関係を高めていくことです。「校長先生、うちの学級の〇〇さんをほめてください。」という依頼も常時受け付けています。

・「個別評価（確認・賞賛・フォロー）」：一時間に一回は全員に丸付けをする等、「できたかどうか」を個別に確認し、できた子はほめる、できていない子には手立てを打つ、これを毎時間確実に言うことを目指しています。研究授業では指導案に明記し、その方法と効果を検証します。

大切にしたいことを職員や児童に合言葉で示し、浸透させ、絶えずプラス評価していく、このことが、学校の一体感と前向きな雰囲気をつくる上で効果的であることを実感しています。

## 豊かなつながりを 大切にしたい学校づくり

中間市立底井野小学校長 青木 美佳子

本校は、来年度創立百五十周年を迎える、明治七年開校の歴史ある小学校です。現在の児童数は、百七十四名。代々底井野小学校の卒業生という家庭も多く、田んぼや川に囲まれた自然豊かな地域にあります。このような環境の中で、様々な『ひと』との豊かなつながりを大切にしたい。本校の教育目標である「確かな学力を身につけ、情操豊かな子どもの育成」に向けた教育活動に取り組んでいます。

### ① 思いやりの心を育む異学年交流活動

#### ① 全校縦割り集会

本校では、全学年一学級という小規模校のよさを生かして、年三回全校縦割り集会を行ってまいります。縦割り班は、一年生から六年生まで入り、一年間同じメンバーで活動するので、次第に打ち解けて日常的な交流も生まれます。そのうち、休み時間に縦割り班の子どもたちで遊ぶ光景も見られるようになります。この縦割り班は、六年生が中心となって活動の計画・運営を行います。三学期になると五年生を計画段階に加えます。そして、五年生は、六年生から活動を学ぶことで、六年生から『最上級生』としての役割を受け継いでいくという自覚と意欲を高めていきます。また、全ての学級担任が各班の担当となること

で、様々な学年の子どもたちとのつながりができます。このように、縦割り集会活動を通して、教員・児童ともに学年を超えた広がりの中で豊かな人間関係の構築を図っています。

### ② 六年生と一年生の交流活動

きょうだい学年で活動する遠足や、近接学年で行う運動会の種目など、異学年での活動を位置づけていますが、本校では、特に六年生と一年生の交流活動を大切にしています。具体的には、四月に作った一年生と六年生のペアで、学校探検や「一年生を迎える会」でのお世話、水泳学習のペア活動、タブレット端末を使う学習のサポートなど、様々な交流を行ってまいります。このような活動を継続することを通して、六年生の自尊感情の向上が見られるようになりました。また、下級生にとって「六年生のようにになりたい」というよいお手本ができ、学校全体によい影響をもたらしています。



【6年生と1年生 ～ペアでの活動中～】

二 学校・家庭・地域で育む子どもの成長

本校の強みである地域の力を借りて、子どもたちが、見守られ、認められる喜びを実感できる活動にも取り組んでいます。地域の方に昔遊びや工作などを教えていただいたり、保護者や地域の方と一緒に除草作業をしたりする活動の中で、子どもたちは地域の方から温かい声をかけていただきます。それが、自分のよさを見つけ、自信をもつことにつながっています。

これからも、小規模校のよさを生かして、学校・家庭・地域がともにつながり、そこから生まれた様々な『ひと』との豊かな関わりを通して、子どもの自尊感情を高め、思いやりのある子どもの育成を目指します。

ICTを積極的に活用しながら  
地域を愛する心を

築上町立上城井小学校長 有馬 仁

一 はじめに

本校は、築上町市街の中心部より南に10kmほどに位置し、学校のすぐ脇を流れる城井川や、日本第四位の巨樹である樹齢約千九百年の大楠に見守られる自然豊かな学校です。

二 ICTの日常的な活用

本校では、一人一台端末等のICTを日常的に活用していますが、特徴的な取組の三点について紹介します。

① 毎日教室の大型テレビモニターに、一日の予定や活動内容を提示し、見通しをもたせるとともに、活動への期待をもたせるようにしています。この取組を始めてからは、主体的

に活動する姿が多く見られるようになりました。

② 家庭学習として、「朝日小学生新聞のデジタル版」を活用し、新聞を通して新しい知識を得るとともに「今、世の中で起こっていること」に興味をもつことができている。新聞を読んだ感想や、一日の学習の振り返りをタブレットに入力することで「書く力」も高めています。

③ 様々なプログラミング教育を行っています。例えば、レゴで組み立てたロボットを惑星探査機にたとえ、惑星を回って地球まで戻っていくミッションをクリアするためのプログラムを考えたり、ドローンの動作命令をプログラムし、「離陸して指定のポイントに着陸させる」等のミッションに取り組みたりしています。さらに、学んだ知識や技能を生かしながら、プログラミング作品づくりも行っています。

三 地域と連携した教育活動

① キクイモは築上町の特産品です。このキクイモを栽培しながら行う学習は、「町の特産品としてのキクイモを守るために、自分たちにできることを考え、実践していく」ことをねらいとしています。四月に畑の準備、五月に種芋を植え付けし、例年十一月には300kg近くが収穫できています。毎年、近くの農産物直売所で販売していますが、昨年は「KITE博多」で、今年は県庁一階ロビーにて販売活動を行いました。その他、キクイモキャラクターを考え、生産者が販売している「ふりかけ」の商品パッケージに採用されました。料理レシピも考案し、昨年、学校給食

の献立となるなど、地域活性化のためにできることを取り組んでいます。

② 地域の「ホタルの里づくり」に貢献しようとホタルの飼育活動に取り組んでいます。学校近くの川でホタルを採集し、数日後には飼育ケースのガーゼに、たくさんの黄色くて小さな卵が産み付けられました。そして、水質が悪くならないように気をつけながら幼虫を飼育し、採集した場所で放流しました。このような活動は「地域を愛する心」を育むことにつながっています。

四 おわりに

今後もICTを積極的に活用しながら、地域を愛する心を育て、児童、保護者、地域の方々にとって「魅力ある学校づくり」を推進していきます。



【ドローンを活用した授業の様子】

各部の活動報告

対策部活動状況の報告

対策部長 清尾 昌利

今年度の対策部の活動は、福岡県教育委員会への要望書の取りまとめ及び市町村教育委員会要望内容についての実態把握、東日本大震災被災地（宮城県）視察研修、全連小三地区対策担当者連絡協議会への参加と、三部幹事会における情報交換が主な内容です。被災地視察研修は四年ぶりに実施することができました。

一 本年度の要望書の重点項目

小学校・中学校の合同会議において内容を検討し、次の七点を重点項目として要望しました。

- ① 授業持ち時間削減や特色ある学校づくりに向けた専科教員や指導方法工夫改善教員のさらなる配置
② 特別支援教育に係る人的・物的環境の整備
③ 欠員が生じない教職員の任用
④ 教職員の処遇改善
⑤ 県立高等学校入学選抜の適正な日程及び方法
⑥ 部活動の適正化及び地域移行の推進
⑦ 勤務状況の改善を図る施策の具体化
回答説明会では、要望した内容について、引き続き対策を検討するとともに国にも働きかけていくとの回答をいただきました。
二 東日本大震災被災地（宮城県）視察研修
現在・過去・未来の三つのテーマで、震災当時に対応した教育委員会や教職員、当時小中学

生だった方から貴重なお話を伺い、災害対応や防災について深く学ぶ研修となりました。
日 時 令和五年八月八日・九日
訪問先および研修内容

【現在】復興の状況から学ぶ
○ 巨理町立荒浜中学校 視察

【過去】震災の教訓から学ぶ
○ 震災遺構中浜小学校 視察

○ 震災遺構門脇小学校 視察・説明

○ 東松島市立大曲小学校 講話

【未来】今後の防災から学ぶ
○ 女川町立小中学校 視察・講話

○ 旧女川第一中学校跡地 講話

三 全連小三地区対策担当者連絡協議会
日 時 令和五年十一月十日
場 所 福岡リーセントホテル
協議題

① 勤務実態調査を受けて、学校における働き方改革の進捗状況と課題について

② 各地区の教員不足の状況と教員確保と質向上の取組について

三地区（中国・四国・九州地区）各県の対策担当者と協議題について情報を共有し、要望活動につなげることができました。

四 これまでの主な活動と今後の予定

① 小中連絡会（重点項目内容選定）
五月二十二日 六月二十三日

② 県教委への要望書提出 七月十三日

③ 全連小三地区対策担当者連絡協議会
十一月十日

④ 県教委 小中学校校長会要望書に係る回答説明会
十一月十三日

⑤ 市町村教育委員会要望内容についての実

態把握・集約 十二月末まで
対策部長研修会 一月二十四日
⑥

調査研究部活動状況の報告

調査研究部長 原尾 宏志

調査研究部は、県小学校長会の活動方針に基づき、研究主題「豊かな未来を創り出す子どもを育てる小学校教育を推進する学校経営」に関する調査及び研究を行っています。

一 調査研究部アンケート

本年度も次の二つの内容についてアンケートを実施しました。

調査① 教育活動に係る現状と課題

調査② 教員の資質向上や意識改革に向けた取組

特に本年度はポストコロナを見据え、「時数設定（時数削減や時数確保）の状況」「教育課程の実施上の工夫」の項目を追加して実施し、県内抽出の八十二校から回答をいただきました。その結果について簡単に報告します。

・時数設定について八十九%の学校で対策をとっており、その内五十三%が時数削減、四十七%が時数確保の対策をとっている。時数削減は六時間の日を削減したり学校行事等の時間を減らしたりし、時数確保は六時間や七時間の授業日を増やしたり長期休業期間を短縮したりしている。

・ポストコロナに向けた教育課程の工夫について、学校行事の削減や縮減、変更を中心として九十二%の学校で行われている。

・授業改善は七十%の学校で進んでおり、例年同様、校内研修の充実と日常化が有効な方策と言える。一方、三十%の進んでいない学校では、教員の若年化等による職員構成や教員の意識の問題がある。

・働き方改革には、全ての学校で取り組んでいるが、引き続き管理職及び教員の意識改革が必要である。

二 三地区調研担当者連絡協議会

- ・日 時 令和五年十一月十日
- ・会 場 福岡リーセントホテル
- ・参加者 中国、四国、九州地区十七県の調査研究部長

・内 容 ①教員の資質向上に向けた取組  
②学習指導要領全面实施四年目に係る取組状況と課題

教員の資質向上については、校内研修を中心に現場で学ぶことの重要性を再認識しました。そのため、会議の開催方法の工夫などの研修時間を生み出す工夫や、個別最適な学び・協働的な学びにつながる研修内容構成の工夫が、必要であることが分かりました。学習指導要領全面实施四年目の取組については、GIGAスクール構想に基づくタブレット端末の活用を中心に協議しました。子どもの学力向上につながる効果的な活用のためには、教員のICT活用観を磨いたり授業観を見直したりすることの大切さが分かりました。全体を通じて、教員の資質向上のため、時代の変化に応じた意識改革と校長が担う役割と責任の大きさを再認識しました。

広報部活動状況の報告

広報部長 松 吉 敏 郎

広報部では、県小学校長会の活動方針に基づき、本県の教育活動の動向、諸団体・機関からの情報を収集し、適時性のある情報提供に努めながら、創意ある学校経営の充実に資するため、「小学校長会報」を発行するなど、積極的・組織的な広報活動を展開しています。

また、全国連合小学校長会からの広報依頼に対応し、「小学校時報」の原稿執筆、全連ホームページ「特色ある学校紹介」掲載への協力も行っています。

さらに、県小学校長会ホームページの充実と有用な情報提供への改善に努めています。

活動の実際と活動予定

一 県小学校長会及び各郡市校長会における  
広報活動の活性化に資する広報部長研修会

- 第一回 五月十二日 第二回 九月二十日
- 第三回 一月二十四日

福岡県社会教育総合センターにおいて  
二 学校経営充実に資する県小学校長会報誌

「校長会報」の発行  
【一〇一号】七月発行

- 内容 「会長挨拶」(黒澤真二会長)
- 「退任副会長挨拶」(六地区)
- 「新任校長抱負」(六地区)

【一〇二号】十二月発行  
内容 「県教育施策の見直し」

(義務教育課長)  
「特色ある学校経営」(六地区)

三 県小学校長会ホームページの充実・運用  
更新内容

「第一回郡市校長研修会講話資料」  
『今こそ、校長職を楽しもう!』掲載

「第二次校長研修会資料」掲載  
「第七十九回福岡県小学校長会研究大会

(京築地区大会)案内・資料」掲載  
「校長会報一〇一号・一〇二号」掲載

「事務所だより 各号」掲載  
「第七十九回福岡県小学校長会研究大会

(京築地区大会)を終えて」掲載  
「研究紀要執筆依頼・原稿フォーマット」

新着情報として掲載  
四 全連小機関誌「小学校時報」への寄稿

【四月号】「会員の声(創意と活力に満ちた  
学校経営)」

うきは市立千年小学校長 樋口佳子先生  
【七月号】「この道この人」

九州先端科学技術研究所 松田美幸様  
【十月号】「各都道府県校長会の動き」

福岡県小学校長会幹事長 廣渡 一郎 先生  
【十二月号】「会員の声(全連小東京大会

第十二分科会に参加して)」  
大宰府市立小学校長先生に寄稿依頼済み

【二月号】「会員の声(全連小徳島大会の  
研究課題に寄せて期待すること)」

久留米市立小学校長先生に寄稿依頼済み  
福岡県小学校長会「研究紀要」の作成

二月下旬発行予定

